



観音像

はなくて、それが客観的にまた自分にとって何を意味するかということが問題になってくるわけです。対象があって、そこに意味を求めたり（写真）、直接に主観的な意味や性格を出す（抽象）のではなく、おのずからそれが出てくるというところが難しいんじゃないかと思えますね。

——拝見しますと、なかでも仏像とかキリスト像などが多いんですが、これは先生のご専門の宗教学との結びつきが、どこにあるように思われますが……。

杉瀬 キリスト教のシンボリズムといいますが、象徴主義というものの、例えばスクラメントとか、インカーネーションという、イエス・キリストが人の形をとって受肉したという、祈

りの研究とか神秘主義ということを永年やってきたわけですが、理性的なものと神秘的な体験というものが、どういう形で結びつくかその接点を考えるわけです。

ご存知のようにキリスト教では偶像を禁止していますが、偶像を否定することが観念化に走るんじゃないかと、一つの象徴としての



イエス像

のが少しはあってもいいんじゃないかという気がします。

例えばキリスト教のアイコンにしても実際に自分で作ってみると、解説を読むのとかかなり違うと思うんです。私が彫刻を意図的にやり出したのは、自分でやっているうちに何か感ずることがあればと思って始めたわけです。

ゆくゆくはキリスト教的なものを彫ってみたいと思っていますが、仏教美術は、大乗伝統

が深いですから、象徴性とか、いろんな技法を学べるだけ学びたいと思っています。

——最後に、これから木彫りをやってみようとする人へのアドバイスなどを……。

杉瀬 木彫りというのは上手、下手にかかわらず、やっているとおもしろさが出てくるところです。型にはまったものではなく、その辺に落ちてゐる木の切れ端から何が生み出せるか、それと対話をして求めていくところにたのしみがあるんじゃないかと思うんですが……。

——どうもありがとうございました。

